

宇宙を回る スタンプラリー



宇宙を見る 天文教室



松阪市天体観測施設

まつさかしてんもんだい

松阪市天文台

Matsusaka-City Astronomical Observatory

天文台の望遠鏡で、星空の名所めぐりをしましょう。
全天の名所の中から選りすぐった12の天体(ターゲット)はその位置によって見える季節が違います。全てを見終わるまでには、1年以上の期間が必要となりますので、がんばって、ゴールを目指しましょう。
ゴールされた方には、天文台から素敵なプレゼントを用意しています。

スタンプラリーのターゲットと観察できる季節

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2024				木星						火星		
2025	金星								火星			
2026				金星								
	M42・オリオン星雲						アルゼリオ			M31・アンドロガ		
	M45・すばる						M13・球状星団			星雲		

月の観望好期は三日月から満月過ぎまでです。新聞のこよみ欄で月の出・月の入りの時刻を確認してください。
自分の星座：誕生月の3~5ヶ月前です。
国際宇宙ステーション：観察できる日時はJAXAのウェブサイトでご確認ください。
URL <http://kibo.tksc.jaxa.jp/>



毎週土曜日の午後7時から9時まで(入場無料)

天文台の望遠鏡で、太陽系の惑星や銀河系の星雲などを観察しましょう。ただし、雨天や曇天の場合には星が見えませんが休館となります。また、設備点検などのため臨時にお休みする日がありますので、松阪市の広報や携帯ウェブサイトでご確認ください。ご来館を迷われた場合には電話でお問い合わせ下さい。なお、開館は夜間となりますので、小さなお子様は、大人の方の同伴をお願いします。

天文台へのアクセス

松阪市天文台は、松阪市中部台公園の中にあります。お車でお越しの方は中部台運動公園の第3駐車場又は第4駐車場に駐車し、そこから徒歩で約5分です。



三重県松阪市立野町美濃平1268
東経 136° 30' 19" 北緯 34° 30' 40"
電話 0598-26-2132 (天文教室開催時のみ)
0598-26-7155 (松阪市総合体育館)
URL <http://cosmic.world.coccan.jp/matsusaka>



松阪市天文台の歴史

76年の周期で太陽系を巡るハレー彗星が地球に到来し、全国に天文フィーバーが吹き荒れたとき、まだ三重県下には誰もが気軽に利用できる一般公開された天文施設はありませんでした。
その頃、松阪を中心としたアマチュア天文家たちの呼びかけで「天文台建設」の署名活動が行われ、多くの方の協力をいただいて、ついに宝くじ協会の普及宣伝助成事業により、松阪市と熊野市に双子の天文台が建設されることになりました。
そして、昭和62年(1987年)に中部台公園内に松阪市の施設として天文台が竣工し、以来、ボランティア指導員が中心となって運営を行っています。

天文台の望遠鏡

松阪市天文台のメインの機材は、2階の天文ドームの中に据えられた口径45cmのカセグレン式反射望遠鏡(ゼロデュア苗村鏡)で、コンピューター制御により、狙った星を正確に捉えることができます。月のクレーターや土星の輪はもとより、肉眼の約4千倍の光を集めて、数千万光年離れた銀河も見ることが出来る望遠鏡です。また、15cm屈折望遠鏡(フローライト)を同架しており、対象とする天体に応じて使い分けられています。
来館された皆さんには、主にこれらの望遠鏡で、星空を観察していただいておりますが、たくさんの方の見学の方が訪れたときや、天の川の観察など、状況や対象に合わせて、25センチ反射望遠鏡や双筒鏡を野外に設置して楽しんでいただいております。



木星

M42オリオン大星雲



天文台の望遠鏡で撮影した天体

宇宙を知る こどもクラブ



(毎月最終土曜日午後7時から9時まで)

「こどもクラブ」は、小中学生を対象として、星に関する学習や工作を行う会員制の講座です。観測会では指導員によるオープンプラネタリウム、また天文工作としては、簡易プラネタリウムや星座パネルなどを作って宇宙への理解を深めています。
参加を希望される場合や詳細のお問い合わせについては、天文教室の際に指導員にお尋ね下さい。



こどもクラブの工作教室で製作した学習器具
左より：想像の惑星・土星のモデル・プラネタリウム
星座フレーム・月齢モデル・万華鏡・分光器 など

